

令和4年11月1日

太田市議会議長 岩崎 喜久雄 様

創政クラブ 代表 久保田 俊

## 会派行政視察報告書

- 1 期 日 令和4年10月17日（月）から 10月19日（水）までの3日間
- 2 視 察 地 秋田県 能代市、秋田県 由利本荘市、新潟県 新潟市
- 3 視察事項 (1)秋田県 能代市議会  
① バスケットボールによる街づくりについて  
  
(2)秋田県 由利本荘市議会  
①ナイスアリーナの防災利用について  
  
(3)新潟県 新潟市  
①プロスポーツ支援について
- 4 参 加 者 9名  
久保田俊・大川陽一・高藤幸偉・高田靖・今井俊哉  
高木きよし・松浦武志・長ただすけ・松川翼
- 5 視察概要 別添のとおり

## (1) 秋田県 能代市議会 視察概要

### 能代市の概要 (令和4年3月末日現在)

- ・面積 426.95 平方キロメートル・人口 50,012 人・世帯数 24,165 世帯
- ・市制施行 昭和15年10月
- ・一般会計予算額 令和4年度：296億3千万円
- ・議員定数 20人
- ・政務活動費（議員一人当たりの年額）12万円

### 視察事項

#### ① 「バスケットボールによる街づくりについて」

##### ・目的

バスケットボールをきっかけとして、交流人口の増加、街のにぎわいの創出をはかるため

##### ・所感

能代市は平成元年度から、バスケの街づくり事業に取り組んでおり、バスケットボールを核にあらゆるスポーツの振興を図り、『誇りと愛着のもてるふるさとの構築』を目指しているようです。

平成15年度から『新バスケの街のしろ推進計画』をスタートさせ、『みんなのチカラできらりと光るバスケの街』を基本姿勢に競技人口の拡大や能代カップ等への支援、教室・大会の開催や情報発信などの取り組みが進められてきたが、平成24年度から新たな推進計画『能代市バスケの街づくり計画』では、バスケットボールを通して、能代市から全国に向けて元気を発信できるような街を目指したいという思いを街づくりのビジョン『バスケでみんなが元気になれる街』に込め、地域振興に取り組んでいた。交流人口の増加、スポーツツーリズムの活性化、スポーツ振興を図るうえでこれら推進計画は有益に感じた。能代市のスポーツ推進計画を参考にしながら、本市にあったバスケットボールによる取り組みを行い、バスケットボールの推進に努めていきたい。



## (2) 秋田県 由利本荘市議会 視察概要

### 由利本荘市の概要 (令和4年3月末日現在)

- 帯
- ・面積 1,209.59 平方キロメートル・人口 73,548 人・世帯数 30,744 世帯
  - ・市制施行 17年3月22日
  - ・一般会計予算額 令和4年度：474億1千万円
  - ・議員定数 22人
  - ・政務活動費（議員一人当たりの年額）13万円

### 視察事項

#### ①「ナイスアリーナの防災利用について」

##### ・目的

本市の新体育館も防災利用が考えられており、その活用方法を参考にするため

##### ・所感

平成15年12月に国立療養所秋田病院が廃止となり、平成24年7月より国療跡地利活用検討委員会が設置された。平成26年に基本計画が策定された。平成27年に着工し、事業費は91億3千万円で、大きな内訳として、一般財源3億8千万円、合併特例債71億8千万円、国の防災・安全社会資本整備交付金14億6千万円であった。

体育館施設は1階にバスケットボールコート4面が確保できるアリーナのほか、800席の可動観客席を備え最大5000人の観客を収容可能である。サブアリーナも公式バレーボールが開催可能な高さがあり、その他に柔道場、剣道場、トレーニングジムを備えていた。災害時は、最大約3000人が一時避難出来る防災拠点としての役割を担い、宿泊施設、入浴施設が整備され、大規模災害時は多目的広場や駐車場も利用が可能だそう。公園の椅子やベンチも災害時には焚火台になるなど工夫がされていた。災害時には施設設備が最大限発揮できるよう、本市でも取り組める部分は参考にし、施設の整備強化につなげていきたい。



(1) 新潟県 新潟市議会 視察概要

**新潟市の概要** (令和4年3月末日現在)

- ・面積 726.28 平方キロメートル・789,275 人・世帯数 345,882 世帯
- ・市制施行 明治22年4月1日
- ・一般会計予算額 令和4年度：392億2000万円
- ・議員定数 50人
- ・政務活動費（議員一人当たりの年額）180万円

**視察事項**

①「プロスポーツ支援について」

- ・目的

群馬クレインサンダーズと本市による地域振興推進を図るため

- ・所感

新潟市では2002年のサッカーワールドカップが機運となり、競技場を建設しホームタウンとして支援することになる。支援の目的は『スポーツ振興と青少年の健全育成』と『市民の連帯感の醸成と地域の活性化』である。アルビレックス新潟はサッカー以外にも野球、バスケットボール、チアリーダーズ、ランニングクラブ、レーシングチームなどと名称を共有し、スポーツを通じて豊かで幸せな街づくりを目指して地域に根差した活動を展開してきている。2019年にはホームタウンを新潟市全市町村と広域化した。広域化による地元市民の影響は少ないようだ。

新潟市は平成17年に新潟市スポーツ振興基本計画を策定していたが、国が平成23年6月にスポーツ振興法を全面改正したことに基づき、翌年3月に『スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会創出』を目指すスポーツ基本計画を策定した。日本で初めて『文化・スポーツコミッション』が設立されナショナルチームの合宿誘致などスポーツを通じた地域活性化や交流人口の拡大を図っている。本市においてもプロスポーツ支援により地域の活性化を図るうえで、効果的な事業を参考にしていきたい。

